

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000309
法人名	株式会社 トミタ
事業所名	グループホーム なかよし倶楽部
所在地	富岡市七日市676-4 (電 話) 0274-89-3000

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年9月11日

【情報提供票より】(19 年8 月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5. 1	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円) 無		有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要 (8 月 20 日現在)

利用者人数		9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1		1	名	要介護2	1	名
要介護3		3	名	要介護4	4	名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	79.2 歳	最低	71 歳	最高	101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院、公立七日市病院、富岡医院、おのざわ歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に立地しており、近隣には理容院や飲食店等があり、利用者が食事に出かけることもある。自治会に加入し、地元の祭りや行事に参加している。社会福祉協議会を通してボランティアの受け入れ等も行っており、社会資源の活用により自然な形で地域との交流が図られている。季節に応じた花見等の外出や秋には温泉旅行も計画されており、利用者の心身の活性に繋がるような支援が行われている。施設長は交代して2ヶ月目であるが、前向きに取り組む姿勢が伺えた。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 確実な申し送りは、申し送り簿に記入し確認のサインをすることに改善された。チームケアのための会議は定期的に開催されておらず改善されていない。入浴支援は、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に支援にはなっておらず改善されていない。緊急時の手当てでは、全ての職員が応急手当の訓練を定期的に行っていないので改善されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長、管理者で作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの活動内容の説明後、利用者の生活について、感染症について、脳活性リハビリについて、地元の祭りへの参加についての意見交換をした。職員(看護師)が講師となり、「介護予防と口腔ケア」について学習した。それを活かした取り組みとしては、地元の祭りへ参加した。利用者に脳トレーニングで計算ドリルを行った。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「苦情の受付」を文書で明示しており、施設長がホーム側の窓口となっている。家族の面会時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議に家族に出席してもらい、意見や要望等聞くようにしている。家族からの意見や不満は全職員で共有し、運営に反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、地域の一員として道普請や地元の祭りに参加している。近所のラーメン店に食事に行ったり、地元の理容師やボランティアも来訪している。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつまでも住み慣れた地域の一員として暮らし続けられるように、地域密着型サービスとしての役割を考えながら、事業所としての理念をつくりあげていこうと現在職員で検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、申し送りやミーティングの時等に取り組む姿勢を確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の一員として道普請や地元の祭りに参加している。近所のラーメン店等へ食事に行ったり、地元の理容師やボランティア等も来訪している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的が伝達されておらず、前回の外部評価の改善課題に具体的に取り組むことや自己評価について全職員で取り組まれていない。	○	評価は、一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識合わせ、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていける。サービス評価の意義を理解し、全職員で具体的な改善に取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに2回開催されたが、昨年12月以降休止されている。2回目の会議では、ホームから活動内容の報告、出席者で意見交換を行った。その後、職員(看護師)が講師となり、「介護予防と口腔ケア」について学習した。	○	運営推進会議は外部の人々の目を通して、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会なので、継続して開催してほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域ケア会議に出席し、毎月ホームの実情等は伝えている。報告等しなければならないことがあれば報告している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、利用者の生活の様子や健康状態について話をしている。毎月、日常の様子を知らせる手紙と写真を家族に送付している。家族と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席してもらい意見を聞いたり、家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に対しては早期の人員確保に努めたり、異動等に対しても最小限にし、代わる場合には、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は認知症実践者研修、実践リーダー研修、管理者研修、感染症対策や口腔ケア研修等受講しており、ケアに反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者5施設とは定期的に交流を図っており、それぞれのホームで抱えている問題について話し合っている。地域ケア会議で他法人の同業者と毎月交流を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学してもらい、本人、家族が安心できるよう話し合っている。入居後も馴染みの品を持ってきてもらったり、家族への電話の取次ぎや訪問の依頼、気分転換の外出等徐々にホームの環境に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常の生活場面や言葉の中から教えてもらう事も多く「ありがとう」の気持ちを大切にしながら、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思いや意向等聞いている。日々のかかわりの中で、一人ひとりの言葉や表情、行動等から本人の思いや希望を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、職員全員で気づきをノートに記載し、集約して介護計画に反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しは行っている。定期的な見直しについては、3ヶ月に1回行なっており、支援経過は良く記載されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院介助や自宅への送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人や家族の意向を確認しており、協力医の他、希望するかかりつけ医、希望の医療機関で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化や終末期に向けた指針を本人や家族に説明し、同意を得ている。その後も状態の変化やリスクについて、本人や家族、かかりつけ医等と話し合いをしながら、その都度対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、さりげない言葉かけや対応に配慮している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝の申し送り時において、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日をどのように過ごしていただくか相談し、できるだけ本人の希望に添って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう支援している。利用者が準備や片付けを職員と一緒に行う場合もある。外食に出掛けることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回、午前中に入浴支援をしている。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、本人や家族から一人ひとりの習慣や希望をよく聴いて、相談しながら個別に合った入浴の支援を行ってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、下膳、洗濯物たたみ、外食、誕生会、季節の花見、日帰り温泉旅行、ボランティアの来訪等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、買い物、地域の祭り、季節に応じた花見等支援している。外食には希望者を募り出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関扉は施錠している。家族に説明し理解を得ている。	○	出ていく気配を職員が見落とさない見守りの方法を徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、利用者の安全を確保しながら、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成18年10月16日付、消化・避難訓練を実施している。『緊急時連携マニュアル』を作成している。消防法に基づいた『消防計画』(目的と適用範囲、管理権限者及び消化管理者の業務と権限、自衛消防組織の編成及び任務、火災予防上自主点検)の内容を確認した。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、栄養バランス、水分量等記録し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇には季節の花を、庭のデッキに設置したプランターには朝顔が植えられ、季節感を採り入れている。室内は天井が高く吹き抜けで開放感がある。共用空間には畳の間やソファ等設置されており、居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆や衣装ケース、テレビ等馴染みのある物が持ち込まれている居室もある。		